

## 〈論文〉

## 方言を教材にした総合学習の展開

——「信州弁の日」のまとめを踏まえて——

大橋 敦夫

## はじめに

平成二九年度に行われた本学総合文化研究所大会（二〇一七・七・一）は、「信州弁の日」をテーマとした。以下に、当日の概要を報告・記録し、それらを踏まえて、方言を教材にした総合学習の展開について考察する。

本稿の構成は、以下のとおりである。

- 一、概要報告……プログラム・企画趣意書
- 二、基調講演（再録）
- 三、来場者アンケートの分析
- 四、方言を教材にした総合学習の展開
- 五、まとめ

## 一、概要報告

まず、当日のプログラムを掲げる。

- I. ①基調講演「危機言語としての信州弁」（大橋敦夫）
- ②研究発表「嬌恋方言と上田方言の類似点」（本学学生）
- II. 私のマチとコトバ……プレゼンテーション
- ①長野県内（本学学生六名）
- ②新潟県内（本学学生二名）
- ③静岡（本学学生）
- ④徳島（本学学生＋本学専任教員）
- ⑤中国語（本学外国人特別研究生＋本学専任教員）
- III. 方言演劇（本学演劇サークル）
- ①シンデレラ

②白雪姫

③浦島太郎

IV. エンディング（本学ダンスサークル）

県歌「信濃の国」のダンス

当日のステージ発表・運営はもちろん、準備段階（ポスター・チラシの作成等）から、学生が主体的に関われる場面が多くなるよう心がけたものである。

なお、Ⅰ―②の研究発表は、その後、論文形式に整えられ、本学総合文化学科『平成二九年度卒業研究集』に収録されている。

また、Ⅱは、出身地域の紹介と主な俚言をパワーポイントにより五分程度で、プレゼンテーションした。中国語については、地域差の説明に加え、少数民族の様子も紹介された。Ⅲは、選び取った場面のセリフを演者の出身地域の方言により脚色している。Ⅳでは、ユーロビートの県歌「信濃の国」に合わせたダンスが披露された。

つづいて掲げるのは、「信州弁の日」の企画趣意書である。

信州弁の日・「企画趣意書」

生物の世界の絶滅危惧種については、多くの方が意識されていると思いますが、言語にも消滅が懸念される危機言語があります。

す。ユネスコが「世界危機言語地図」というものを作成していますが、その第三版（平成二二年二月）に、日本国内の八つの言語が入りました、すなわち、アイヌ語・八重山方言・与那国方言・八丈方言・奄美方言・国頭方言・沖縄方言・宮古方言です。

また、近年の東日本大震災に代表される自然災害は、あつという間に地域のコミュニティを破壊してしまうこと、またその地域の再生の絆となるものが、地域の言葉（方言）であることを私たちに認識させてくれました。

さて、われらが信州弁の現在そして未来は、いかなるものでしょうか。将来の信州弁の担い手となるであろう学生たちが、それぞれの地域のコトバについての思いをお伝えします。

題して「信州弁の日」。信州方言に思いをはせ、コトバについて弁じることを主眼とします。研究発表あり、地域のプレゼンテーションあり、演劇あり、ダンスあり、それぞれのアプローチをお楽しみください。

（総合文化研究所・大会としては、「信州弁サミット」（二〇一二）「信州方言フェスタ」（二〇一四）につづく、方言をテーマにした三回目の大会です。）

〔大橋敦夫・筆〕

## 二、基調講演（再録）

### 日本語方言の今

皆さま、こんにちは。本日は、「信州弁の日」にご参加くださり、どうもありがとうございます。

トップを切り、基調講演ということですが、大会のテーマである「信州弁の日」という、やや大胆なネーミングの趣旨説明かたがた、お話をさせていただきたいと存じます。

近年、日本語方言の世界でも、生物の絶滅危機種になぞらえ、「消滅危機言語」とされるものがあります。ユネスコでは、レジユメに挙げました七つ（\*）を指定しています。

\* 八丈語・奄美語・国頭語・沖縄語・宮古語・八重山語・

与那国語

その背景には、人口減と共通語の広がりがあります。

さらに、ここ数年の大規模な自然災害（\*）は、地域のコミュニティをあっという間に壊してしまうことを、私たちは目の当たりにしました。

\* 東日本大震災・長野県北部地震（二〇一一）、熊本地震・

鳥取地震（二〇一六）

そして、その地域再生の鍵になるものとして、地域の言葉が絆

となることも、あわせて実感しました。

東日本大震災の後、全国各地から寄せられた支援のメッセージには、方言を含むものが多く見られました。たとえば、沖縄から寄せられた大漁旗には「ちばりょー（Ⅱがんばれ）」の文字が書かれていたりしました。また、何よりも被災地に暮らす方々自身が「がんばっぺし（Ⅱがんばろう）」と自らを励ましていました。

あれから六年。日常生活で、方言を主に使う「方言主流社会」である、青森県八戸市でも「南部弁の日」という催しが始まりました（第一回、二〇一三年一二月開催。第四回は、二〇一六年一二月開催）。これは、「方言の横綱」と呼ばれる青森県でも、若い世代への方言の継承に危機感を持つての運営です。

### 信州弁の今

さて、翻って、われらが信州弁はいかに。

実は、近年ショッキングな調査結果（\*）が報告されました。

\* 清水はるな氏「駒ヶ根市の中学生250人の方言と方言意識」『ことばと文化』第八号（長野・言語文化研究会）

二〇一七・三

それは、駒ヶ根市の中学生は、六割以上の割合で、信州人なら誰でもが知っていると思われる「ずく（Ⅱやる気・根気・精力）」

を知らない、というものです。

一般に、長野県の皆さんは、共通語使用意識が高いといわれています。その理由としては、東京式のアクセントで話し、つまり共通語のアクセントで話し、さらに標準語形分布率全国第六位という位置ですので、当然かと思われます。

とは言え、大人の方ですと、

「おらほに、方言なんか、あるかや（＝自分たちの所に、方言など、あるだろうか?）」とか、学生の皆さんですと

「うちに、方言なんて、あるかつちゃ（＝私たちに、方言など、あるかしら）」あるいは

「ないしない（＝ないでしょう）」

などと、ふり返りつつ、実はしっかりと地域性を出しているのですが。

## 信州弁の未来

という訳で、われらが上田女子短期大学生の意識は、いかがなものでしょうか。

今回のような「方言」をテーマにした大会ごとに、好きな信州方言について質問してきました。

## ◆上田女子短期大学生の好きな「信州の言葉」

「信州弁サミット」

「信州方言フェスタ」

「信州弁の日」

(二〇一二)

(二〇一四)

(二〇一七)

ずく

10人

ずく

14

くしない

20

ずくなし

5

こわい

6

ずく

12

くしない

5

とぶ

6

ずくなし

5

いただきました

2

くしない

4

こわい

3

べちやる

2

ほける

3

とぶ

3

へら

2

くかや

3

うつかる

2

こわい

2

しみる

2

ほける

2

くかや

2

とびつくら

2

NA

2

NA

11

くだに

2

NA

(八六人)

(総数 九四人)

NA

8

(九八人)

二〇一二年から経年変化を追うと、毎回、「ずく」「ずくなし」が上位にあり、ホツとします。

次に掲げる県内各地の事例を見ても、「ずく」は、信州方言のキーワードですね。

○「ずく出し！知恵出し！おもてなし。」（長野県おもてなしプ

ロジエクトのタイトル)

○「ズク出して 夢に向かつて 努力します」(長野市教育委員会ほか「大人と子どもの心得八か条」の第八条)

○上田市のご当地ヒーロー「六文戦士ウエイダー」のパワー源はZUKU

ウィークデーの午後は、「ずく出せテレビ」(SBC信越放送の午後のTV帯番組)をお楽しみの県民の方も多いことでしょう。

信州方言の継承のためにも、駒ヶ根市の中学生の皆さんには、ぜひとも本学で学んでいただく必要がありますね。

## 今後の展望

なお、学生が挙げている「とぶ」「いただきます」などは、「気づかれにくい方言」(\*)と呼ばれているものです。

\*形態や意味あるいは用法が全国共通語と異なるにもかかわらず、当該共同体においては、地域的、社会的変異であることが気づかれにくく、全国共通語だと意識されている言語現象や言語変異体(沖裕子氏執筆)。(『日本語大辞典(上)』朝倉書店 二〇一四・一一)

「ずく」を使う場合、それが方言であることを意識していることが多いと思いますが、「へら(＝舌)」「そうかやー(＝そうか

なあ)」と言う時には、その意識が薄いと思われます。

こうした「気づかれにくい方言」は、どの地域にもあり、今後は、この方面の研究の充実が望まれます。

また、このあとの学生による研究発表のテーマのような接触交流地域の調査・研究(\*)も面白いテーマです。

\*□嬌恋方言と上田方言

□諏訪地域の方言と山梨県西部の方言

「信州弁の日」は、信州弁、すなわち信州方言について語るとともに、信州の地で、コトバについて弁ずる日です。長野県内外から、さらには中国から本学に集った学生が、自らのコトバについて語ります。

加えて、方言をモチーフにした演劇、エンディングは、県歌「信濃の国」を皆様と共に楽しみたいと存じます。

なお、演劇の中で、演者が用いる各地の方言について、一言補足しておきます。長野県内はもとより、いろいろな地域の方言が出てきますが、演じる学生にとっては、両親の言葉であったり、祖父母に聞かせてもらったりした言葉です。

本学の小池明学長は、学生たちに向けて、イギリスはマンチェスターのある家の家訓を紹介されることがあります。それは、「いかに平凡であれ、自分の履歴を大切にしろなさい。それこそ移

り行く時の流れの中にあつて、唯一の財産なのだから」というものです。

今回、この言葉を受けとめた学生たちが、このような形で表現してくれて、非常にうれしく思っております。

それでは、最後まで、お楽しみください。

〔当日会場配布のレジュメの内容を織り込んで再録した。〕

### 三、来場者アンケートの分析

当日は、荒天にもめげず、一般の方も、県内外各地から四十名弱、ご来場くださった。

終了後に、アンケートをお願いしたうち、次回以降の改善点とすべき項目を挙げておきたい。

○学生のマイク・パフォーマンス

□せっかくの内容が聴き取りにくい。

↓座席位置によって、聞こえにくい場合があるようである。

座席を特定し、誘導の際に気をつけたい。

□話すスピードがまちまち。

↓ICT活用の技術をさらに磨き、プレゼンテーションの

リハーサルを十分に行うようにしたい。

○進行・運営

□終了時刻は正確にすべき。

↓午後開催でもよいのでは、とのご提案もあり、全体を見直す時の参考としたい。

総じては、学生の発表・演劇・ダンスに高評価をいただいたが、右のようなご意見を踏まえ、より良い企画運営を心がけたい。

### 四、方言を教材にした総合学習の展開

四―一、国語教科書における「方言」の扱い

まず、現行の国語教科書を通覧する。

小学校では、現行の学習指導要領（「共通語と方言の違いを理解し、また、共通語で話すこと。」）に対応し、五年生の教科書で扱われている。主な教材内容を比較してみる。

○光村図書『国語 五 銀河』二〇一五・二

「方言と共通語」（1頁）

……塩味の足りない しろの味をどう表現するか（方言地図）

○教育出版『ひろがる言葉 小学国語 五上』二〇一五・一

「方言と共通語」（2頁）

……物事の名前・「ゆっくり」の俚言・「ーしない・ーでない」の俚言・アクセント

(問) みなさんの住んでいるところでは？

○学校図書『みんなと学ぶ 小学校国語 五年上』二〇一五・二

「言葉のいずみ2 方言と共通語」(4頁)

……地方独自の言葉と発音・地方独自のアクセント・共通語・言葉の使われるはん囲・方言と共通語のそれぞれの良さ

(問) 「ありがとう・すてる・来ない」の地方差を調べる・

住んでいる地域の方言を調べる

○東京書籍『新編 新しい国語 五』二〇一五・二

「方言と共通語」(2頁)

……いろいろなお礼の言葉

扱う分量に開きが大きい(最大4倍差)。また、説明に終始するものと、説明を受け、問を発するもの(教育出版・学校図書)とがあり、展開に違いもある。また、目次に教材名を明示していない例(教育出版・東京書籍)もあった。

また、全国に目を向けさせる以上、日本地図は示しておきたい(教育出版は、なし)。

中学校では、現行の学習指導要領(「共通語と方言の果たす役

割を理解すること」)を受け、二年生の教科書で登場する。主な教科書を見比べてみる。

○光村図書『国語2』二〇一六・二

「言葉3 方言と共通語」(2頁)

……語句、表現の違い・文法(文末表現)の違い・発音の違い・「捨てる」の方言分布図

○東京書籍『新編 新しい国語2』二〇一六・二

「日本語探検1 方言と共通語」(2頁)

……定義の確認・方言のこれから・「とても」の分布地図

(問) 自分の住んでいる地域での調査・言い換え

○三省堂『現代の国語2』二〇一六・二

「ことば発見2 方言と共通語」(2頁)

……地域による違い・方言と共通語の使い分け・アクセント・「こわい」を「疲れた」の意味で使う分布図  
(問) 自分の地域の方言と共通語の違い・アクセントの違い・使い分けの場面は？

分量・分布図の提示は、共通である。違いは、問の有無である。高等学校では、指導要領に「方言」というキーワードが出てこない。管見では、現行の国語教科書において、次の一例のみ目に留まった。

○大修館書店『精選 国語総合 新訂版』二〇一七・四

「評論(四)言語と社会 『方言コスプレ』現象 田中ゆかり」

(9頁)

現代日本語における方言事象を論じており、生徒の関心を強くひく教材である。小学校からの学びの積み上げを生かす意味でも、同種の教材の採用を望むものである。

#### 四―二、総合学習への展開の具体例

##### (一) カルタ・日めくり等の作成

ご当地カルタの作成が、おりおり話題になるが、一歩踏み込み、「方言カルタ」の作成を目論みたい。読み札の作成に、方言を入れるようにすることで、地域の言葉と向き合うことになる。調べ学習だけでは、当然不足するので、家族・地域の人々に協力を求めることになり、そこで異世代交流のコミュニケーションを経験することが期待できる。また、取り札の絵柄を工夫することで、国語科を超え、図画工作・美術教育との連携に踏み出せる。その先進事例として、佐藤高司・本多正直「群馬県民の知らない上州弁の世界『ぐんま方言かるた』の秘密」(共愛学園前橋国際大学ブックレットⅧ 上毛新聞社二〇一七・三)がある。

また、カルタと並んで、「日めくり」を作成し、その標語を考

えるようにしたい。方言を織り込むように工夫することは、カルタの読み札作成と同趣旨となる。

##### (二) フィールドワーク

###### ① 方言グッズの収集・分析

かつては、観光地の土産物店には、ご当地の方言番付をあしらった手拭や湯飲みが売られていた。現在、そうした方言グッズは、さまざまな商品による展開がなされている。のみならず、方言をキャッチコピーにした標語やポスターも目にするようになった。

自分の生活圏に、そのような事例を求め、分析することが考えられる。調査の手掛かりとして、次の文献が有用である。

井上史雄・大橋敦夫・田中宣廣・日高貢一郎・山下曉美『魅せる方言 地域語の底力』(三省堂書店 二〇一三・一一)

また、本書の基となったHPのサイトも、ヒントとなる。

三省堂 総合HP内のバナー「Word-Wise Web」内にある

「地域語の経済と社会」

分析の観点としては、選ばれている俚言と選ばれた理由、どんな商品・非商品とマッチングされているか、反響について、等が考えられる。



## ②「出世魚」の比較から

高等学校の家庭科の資料集に、主な地域の「出世魚」を紹介したもの（\*）がある。

\*『生活学 Navi 資料＋成分表 2015』（実教出版株式会社）では、出世魚の代表格であるブリを取り上げ、東京市場・富山・紀伊半島・大阪・兵庫・高知の例を比較している（二三五頁）。

「出世魚」は、海の魚ばかりとは、限らない。海なし県の信州でも、川魚の鯉を愛好する佐久地域では、次のように「出世」する。

アオッコもしくはコイッコ（幼魚）↓トウザイ（当歳・一年目）↓チュウッパ（中羽・二年目）↓キリゴイ（三年目で出荷）  
その地域で、生活文化上、関心を寄せている分野の語彙は豊富になる。方言集・方言辞典等を手掛かりに、地域の言語的文化重点領域を探る学習を展開したい。

## ③俚言を含む「ことわざ」の収集・分析

地域特有のことわざの中には、方言を含むものもある。それらの分析を通じて、理科や社会科（地理・歴史）の知見を得ることに結びつけたい。

具体例を見てみる。

鍋・釜・かまどのヘッタ（＝底・尻。群馬方言）に、火がつくと風が吹く

これは、どんな状況を述べたものかというところ、

低気圧や前線などが接近中の湿り気で、焚き木が不完全燃焼すると、鍋や釜の底に煤が着きやすく、狐火となつてチカチカ赤く見える。そして間もなく低気圧などが通過し（発達すればなおさら）強い吹き返しの風が吹き出すのである。

という事情である（注1）。

また、動植物名は、方言の宝庫でもある。

ストト（＝ホオジロ）が騒ぐと 雪が降る（群馬県六合村）  
チチン（＝セキレイ）が鳴くと 雨（群馬県嬬恋村）

さらに言い伝えられている内容から、往時を偲ぶことができる例もある。

汽車の音がよく聞こえると雨（長野県上田市小牧など）

現在は廃線となつている電車路線が、生活の中に根付いていたことを窺わせたり、列車の動力が変化（蒸気↓電気）したりしたことを物語るものである。ここに、理科的視点と共に、地域史・産業史にも展開しうる例が存在する。

「ことわざ」は、方言を含まないものも収集し、この際、学際

的理解にも役立てたい。

#### ④「ものもらい（麦粒腫）」の治し方についての分析

病気にかかわる俚言の調査に付随して、その治療法についても尋ねる場合がある。バリエーション豊富な回答が期待できるのが、「ものもらい（麦粒腫）」の治し方についてである。

所によつては、「○○寺の湧水で洗うと治る」と伝えられている例が出てくる。現在、医学的には、水で洗うことは無効とされているが、こうした民間療法がまかり通っていた時期は、○○寺の湧水が地域で尊重されていたことをうかがわせるものでもある。

それぞれの背景を読み解くように努めると、地域史の解明に通ずることが期待できる。

### （三）プレゼンテーション

#### ①演劇・語り

国語教科書から戯曲・演劇台本が消えてしまったが、演劇教育の意義は、依然として価値あるものと思われる。既成の台本の方言訳から、オリジナル作成へと進みたいものである（注2）。

舞台で演ずるという経験も、まさに総合的な学力表現と言え、それは民話・昔話等の「語り」の実践においても同様である。

#### ②民謡・歌謡曲の創作、舞踊・振付の創作

すでに方言が歌いこまれた民謡（秩父音頭など）・歌謡曲（麦畑など）もあるが、その創作、さらには、舞踊・振付の創作へと進みたい。若い感性が、方言をどのようにとらえているのかが表現されるはずである。

#### ③地域の紹介

「信州方言フェスタ」（二〇一四）・「信州弁の日」（二〇一七）で実践したが、短時間で地域の紹介をする中に、方言を織り込む工夫を求めた。クイズ形式あり、自己流ランキングあり、未知の聞き手に対して、興味を湧かせるようにするのが工夫のしどころである。ICTの活用という点では、パワーポイントを利用することが一般的であり、画像の選択・著作権・色使い・レイアウト等、学ぶ項目は多岐に渡ることになる。

## 五、まとめ

方言は、国語科の学習項目ではあるが、以上のように、さまざまな教科（理科・社会・音楽・図画工作・美術・家庭等）との連携が可能である。小学校から高等学校に至る、それぞれの学齢に

応じた総合学習の展開が企画できる。また、学問分野としては、民俗学や郷土史にも、目を向けることとなり、横断的な視点の獲得にもつながる。

これまでに、その積み上げもなされている（注3）が、さらに実践を積み上げること深化を図っていきたいものである。

その際、札幌和男氏が警鐘を鳴らされている点（生徒（あるいは児童、子供）のために」という視点を欠いた「方言絶対主義」に陥らない 注4）にも目をむけるようにしたい。

#### （注）

1. 青木慶一郎『群馬の天気ことわざ——現代科学との接点——』上毛新聞社一九八六・九（以下の群馬の例も本書による）

2. 先進事例として、次のものがある。「方言で演じる地域の歴史」〔岩手県大船渡市立綾里小学校〕（佐藤亮一監修『ポブラディア情報館 方言』ポプラ社 二〇〇七・三）

3. 日本方言研究会では、松丸真大氏（滋賀大学准教授）が中心となって、教育現場における方言教育の実践例を収集、情報提供に努められている。

4. 札幌和男氏「シティズンシップ教育としての方言教育——方言教育は誰のためか——」『方言の研究』2（日本方言研究会 二〇一六・九）

#### 【参考文献】

大橋敦夫・阿部博美「方言と総合学習——高等学校での実践を例に——」『ことばと文化』第四号（長野・言語文化研究会 二〇〇七・三）  
大橋敦夫（「研究ノート」）「気づかれにくい方言」もしくは「教育方言」収集のすすめ」（長野県国語国文学会『研究紀要』第十号 二〇一三・一一）